

作業を対価とする滞在システムを利用する訪日外国人と ホスト及び地域の関わり方に関する研究 -日本における WWOOF の事例を中心にして-

The contribution of labor in exchange for accommodation and food by foreign tourists to Japan, and their relationships with hosts and the local community - A case study of WWOOF in Japan -

岡田 愛*・川原 晋**

Ai Okada Susumu Kawahara

摘 要

本研究は、作業の対価として食と宿泊場所を提供するホスト、ここを訪問する外国人、およびホストの居住地住民との関わり方について、その世界的マッチングシステムである WWOOF の利用者を研究対象として、日本における利用の現状を明らかにし、さらに、多様な関わり方が見られる先進事例について、その活動内容や展開要因を検討するものである。日本国内では、ホストが WWOOF を自己ビジネスに活用するだけでなく、訪日外国人と地域の関わりを積極的に設けている 32 事例が確認された。そして先進事例において参与観察とブログによる活動ログの分析を行った結果、ホストが介在して、地域住民の持つ課題や資源と、それらに見合うスキルや関心を持つ訪日外国人をマッチングすることにより、地域住民が WWOOF の恩恵を受け、WWOOF の受け入れ活動を支援する状況や、その継続的マッチングによって、ホストの活動場所が魅力ある国際空間として認知され、地域内外から人が集う状況が生まれていることを明らかにした。

I. はじめに

1.1 研究の背景

近年、日本では観光を用いた地域活性化が盛んに試みられている。しかしその主流は産業論的パラダイムにあり、観光の経済的交流に着眼し、利潤の最大化や拡大生産といった「事業の論理」に絡めとられやすい(須永 2009)。その一方で、地方部の観光開発において、観光の経済的交流だけではなく、文化的交流に可能性を見出す議論がなされている。須永(2009)は、観光による経済的交流を第一義とせず、観光による人格的交流から生まれる「誇り」や「楽しみ」といった「情緒的な価値」を見出す地域住民による観光実践を指摘している。また敷田(2005)は、宿をよそ者と地域住民の「交錯の場」となることを示唆し、よそ者のもたらす技術や専門

知識、創造性の励起や地域変容を促進しうる存在として観光の文化的交流の重要性を論じている。

とりわけ、少子高齢化や過疎化に悩む地域においては、「労働」と観光が融合したボランティアツーリズムが注目されている。中村・松本・敷田(2008)は、ボランティアツーリズムを、「自由時間における、さまざまな動機に基づいた、生活圏外においての、社会の諸問題の解決や援助などに貢献する自己実現性ある労働を目的とする観光」と定義した上で、地域に「労働」を提供しながら滞在するボランティアツーリズムは、地域課題解決の糸口となり得ると指摘する。

しかし多くの実践において、想定されるよそ者は国内都市部の住民であり、近年増加している訪日外国人をも射程に入れた研究は、そこから推測される可能性の示唆や紹介に留まり、詳細を記した具体的な研究は少ない⁽¹⁾。日本の地方部の観光を望む訪日外国人が増加し、また、地域の生活課題の改善やコミュニティ形成といった地域課題解決の担い手を求める地方の地域が増加していく中で、相互のニー

*首都大学東京 都市環境科学研究 科観光科学域
2017 年度卒業

**首都大学東京 都市環境科学研究科 観光科学域 教授
e-mail ssm.kawahara@me.com
〒192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1

ズをすり合わせた新たな観光およびそれを支えるシステムの構築が、両者から期待されている。

1.2 研究目的

そこで本研究では、作業の対価に食と宿泊場所を提供するホストと、ここを訪問する旅行者をマッチングさせるサービスシステム（以下、作業対価型滞在システム）に着目する。こうしたマッチングシステムの中でも訪日外国人利用がゲストの7割を占め、日本国内ホストの登録数が最も多いWWOOF（World-Wide Opportunities on Organic Farms）を対象に、以下の3点を明らかにし、WWOOFの仕組みが地域の課題解決等に活かされる可能性や要点について提言する。

- 1) 全国のWWOOFホストを対象に、その「本業」と「地域に資する活動（＝地域活動）」の概要、およびWWOOFホストとWWOOFを活用するゲスト（以下、WWOOFer）、その訪問地域の周辺住民という三者の関わりの概要について把握する。
- 2) WWOOFerと地域の関わりが多様な先進事例を対象に、WWOOFerの地域への関わり方の具体的な状況を参与観察を通して明らかにする。
- 3) 地域とWWOOFerの関わりが多様な先進事例のうち、ブログなどで過去の経緯が把握可能な事例を対象に、その活動の展開状況と要因を明らかにする。

1.3 用語の定義

本研究では、使用する用語を表1の通りに定義する。またWWOOFのnマッチングサービスの仕組みを図1に示した。

表1 本研究で用いる用語の定義

作業対価型滞在システム	「作業」と食「宿泊場所」を交換するシステム。旅行者は、滞在先で金銭を支払う代わりに、滞在先で求められる作業を行う。旅行者と滞在先では金銭のやり取りは行われない。
WWOOF	作業滞在型滞在システムの一つ。有機農場を核とするホストと、そこで手伝いたい、学びたいと思っている人を繋ぐボランティアマッチングサービス。
ホスト	WWOOF登録を行い、食事と宿泊場所を提供する人および団体、WWOOFerの受け入れ先。
WWOOFer	WWOOF登録を行い、WWOOF体験をする人。作業を提供する人。海外から日本を訪れるWWOOFerを「訪日WWOOFer」とする。
WWOOF利用者	WWOOFを利用するホストとWWOOFerの両者。
本業	生計を立てるために行われているビジネス
地域に資する活動 以下、地域活動	本業を行う上で必須でない、地域にひらかれた活動。地域の人や地域のために、時間や知識家に県を共有する活動であり、コミュニティビジネス、市民活動など様々な活動を包括する。

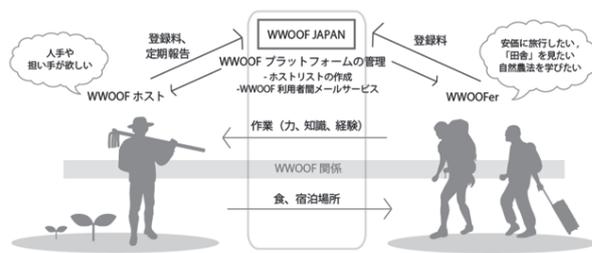


図1 WWOOFの仕組み

1.4 WWOOFに関する既往研究の整理

これまでのWWOOFに関する研究は、ゲストが日々の生活圏を離れて農家に滞在するという共通点から、WWOOFと農家民宿を比較して論じているものが多い。WWOOF事務局⁽²⁾はWWOOFを観光に関連付けることを避けているもの、先行研究では、実質的にWWOOFerは限りなく旅行者に近いものと分類され、農業観光、教育観光のような持続可能な新しい観光スタイルとしてみなされている（Ord 2010）。一方で農家民宿との相違点として、ホストとゲスト間の交流に金銭が介在しない点が挙げられる。その点に着目してMcIntoshとCampbell（2001）はホストの宿泊受け入れの動機や価値観の違い⁽³⁾、Cronauer（2012）は一般的なホストとゲストの関係性の違い⁽⁴⁾を論じている。またWWOOFによる地域への影響も論じられている。Margo B. LipmanとMurphy（2012）はWWOOFerの訪問地域への影響を交通とスローフードの側面から論じ、WWOOFerは環境に優しい移動手段を使用し、WWOOFerの受入れ地域は食について再考させられると指摘している。しかし考察している地域への影響内容は、自然環境への配慮やサステナビリティといった文脈での考察へ帰結しており、住民の生活に関わる地域課題の解決と直接関連して論じたものは見当たらない。また日本におけるWWOOF研究は歴史が浅く、WWOOF Japan代表のBurnsによる、WWOOF利用者の属性および滞在活動の全体傾向を論じたものに留まる（Burns, Kondo 2015, Burns 2015, 2016）。

そこで本研究では、WWOOFを観光の一つのスタイルと認識しつつ、日本における、ホストとWWOOFerの二者の関係性に加え、ホストが住む地域の周辺住民の関わりにも着目し、WWOOFの仕組みを地域課題解決に活用する可能性を探る。このような地域課題解決に関して、三者間の関わりや具体的な交流の実態を明らかにした研究はなく、新規

性があると考えられる。

1.5 本論文の構成と分析手法

第2章では、第1の研究目的である、全国のWWOOF利用者と地域との関わりの全体像の把握することを目的とする。WWOOFを活用する171のホストのホームページ及びブログ等のレビューを行った。第二に、レビューで得た着眼点を基に、WWOOFを利用した訪日外国人と、同171のホストを対象にWebアンケートを行った。ここから先進事例を抽出した。

3章では、第2の研究目的である、WWOOFerの具体的な作業内容や地域住民への関わり方を明らかにするために、地域活動にWWOOFを活用している先進事例と考えられるホストの元で、筆者自らWWOOFerとして参与観察(各事例約2週間)とヒアリング調査を行った。

第4章では、第3の研究目的である、先進事例に至る展開状況や要因を明らかにするために、地域とWWOOFerの関わりが多様な先進事例のうち、ブログなどで過去の経緯が把握可能な事例を調査した。展開時にホストおよび地域や訪日外国人に求められる要素や興味関心を抽出している。

第5章では、総括として、作業対価型滞在システムを利用する訪日外国人が訪問地域の課題解決に果たす役割とその要点を論じている。

II. 全国のWWOOF活用と地域との関わりの現況

2.1 全国のホストの本業と地域活動およびWWOOF活用傾向

本章では、全国のWWOOF利用者の地域との関わりの傾向を把握することを目的とする。まず、その概要と後述するウェブアンケートによるホストとWWOOFerの地域活動への関わりの着眼点を得るために、WWOOF JAPANに登録している日本全国の全439人のホストの中で、2016年時点で

WWOOF受入れを表明している171人のホストの活動レビューを、公開されているホームページ及

びブログで整理した。具体的にはホストの本業や地域活動実施の有無、うちWWOOFerを用いた活動の内容、WWOOFerのどのような力を活用しているのか、の4点を整理した。

ホストの活動内容については、本業に加えて、地域活動を行うホストが171人中87人確認できた。その中でもWWOOFerへ依頼する作業内容が、本業だけでなく地域活動に関わっている事例が、32人の活動で確認できた。WWOOFerのどのような力を活用しているのかに関しては表2のように分類した。本業と地域活動の両方において、WWOOFerのマンパワーとしての活用とWWOOFerの持つスキルを利用した活用との大きく2つの傾向がみられた。

具体的には、草取り、農産物収穫、掃除といったWWOOFer個々人のスキルに依拠しない、多くの作業量が要されるマンパワー活動としての活用が、多くの割合を占めている。しかし中には、英語が流ちょうなWWOOFerに英語教室のアシスタントを頼む、イラストレーターのWWOOFerに家屋の装飾を頼む、シェフのWWOOFerに母国料理教室の開催を頼むなど、WWOOFer個々人の特性やスキルを活かした活用がみられた。上記のスキルを持つWWOOFerを積極的に受け入れるべく、歓迎するスキルをWWOOFのプラットフォーム上で表明するなどの工夫を施しているホストも確認された。

以上ホストによるWWOOFを使った活動内容と、WWOOFerのどのような力を活用しているかに着目し整理すると、次の4つの傾向がみられた。それは、①ホストの本業、すなわち自己のビジネスにおいてWWOOFerを単純に作業員として活用する「自己ビジネスマンパワー活用」型、②ホストの自己のビジネスにおいてWWOOFerのスキルも活用する「自己ビジネススキル活用」型、さらに、自己ビジネスだけでなく地域活動にもWWOOFerの力を活用する2類型、③「地域活動マンパワー活用」型、④「地域活動スキル活用」型である(図2)。

表2 ホストの本業及び地域活動、WWOOFerの活用手法の例

ホスト	活用類型	ホスト事業	ホストの地域活動	地域活動の内容	地域活動へのWWOOFerの関わり	本業および地域活動へのWWOOFerの関わり方
1	①自己ビジネスマンパワー活用	農業	×	—	—	マンパワー 草刈り、収穫)
2	②自己ビジネススキル活用	英語教室	○	商店街の活性化プロジェクトへの参加	×	マンパワー おむつ替え、掃除)、スキル 幼児との英会話)
3	③地域活動マンパワー活用	農業	○	マルシェへの出店	○	マンパワー 草刈り、瓶詰め、マルシェでの販売)
4	④地域活動スキル活用	飲食業、農業	○	不定期での料理教室開催	○	マンパワー 接客、血洗い)、スキル 料理教室での母国料理指導)

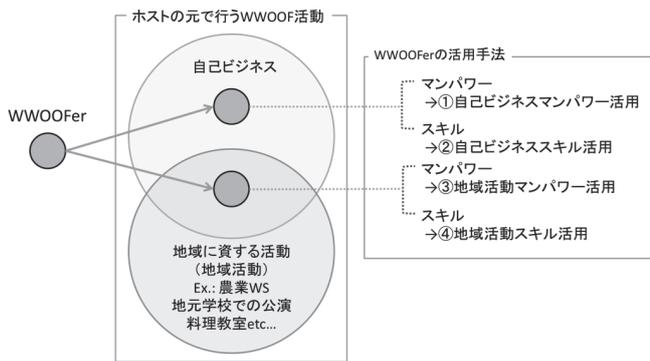


図2 ホストの WWOOF 活動と WWOOFer 活用傾向類型

2.2 全国の WWOOF 利用者の地域との関わり状況

前節で明らかにした傾向および地域との関わりを確認するために、WWOOF を利用した訪日外国人および、上記の 171 人のホストを対象に Web アンケートを実施した（表 3, 4 参照）。

表 3 ホストに対する質問事項

目的1 ホストの地域活動への関わり	
質問1	あなたは地域の中での活動に興味がありますか？
質問2	実際に地域の人と協働して取り組んでいる地域活動があれば以下の中より、お選びください
質問3	具体的な活動内容をぜひ教えてください。
目的2 ホストの地域活動への WWOOFer の活用実態	
質問4	海外からのボランティアも地域の活動に参加していますか？
質問5	海外からのボランティアを地域の人とつなげようと思いませんか？

表 4 過去に WWOOF を利用した訪日外国人に対する質問事項

目的1 過去の WWOOF 体験における地域との交流内容	
質問1	ホスト以外にどのような地域住民と交流を持ちましたか？（一番思い出に残っている WWOOF 体験において、以下質問 7 まで同様の条件）
質問2	どのような形で交流をもちましたか？
質問3	地域住民との思い出をお話してください。
質問4	どのようにして地域住民と出会いましたか？
質問5	地域住民との交流に満足しましたか？
質問6	現在も、地域住民と連絡を取り続けていますか？
目的2 訪日 WWOOFer の考える、地域との関わり的重要性	
質問7	一番思い出に残っている WWOOF 体験において、ホスト以外の地域住民との交流を期待していましたか？
質問8	WWOOF 体験のホストを選ぶ際に、地域住民との交流はどれほど重要な要素ですか？
質問9	再訪を考えるにあたって、地域住民との交流はどれほど重要な要素ですか？
目的3 過去の WWOOF 体験での、回答者の持つスキルの活用実態	
質問10	過去の WWOOF 体験で、ホストの事業を行う中で、あなたの持つスキルやバックグラウンドおよび性格を活用しましたか？思い出をお話してください。
質問11	過去の WWOOF 体験で、ホストは地域住民のために、あなたの持つスキルやバックグラウンドおよび性格を活用しましたか？思い出をお話してください。

WWOOFer 経験者からは 41 件、ホストからは 53 件の有効回答数を得ることができた。この結果から以下のことが明らかになった。

WWOOFer 経験者の約 85%以上が地域住民との交流を期待しており、地域住民との交流を持った約

90%がその交流に満足感を得ていた。その多くがホストの元での活動もしくはホストの紹介を経て、地域住民との関わりを持っており、70%以上の WWOOFer 経験者が、これらの地域住民との関わりがホスト選択時および再訪のきっかけとして重要となると回答していた。

またホストに関しては、ホストの約 95%が地域活動を実践しており、うち約 70%が地域活動にも WWOOFer を活用していた。その中でも、約 55%が WWOOFer をマンパワーとして活用し、10%が WWOOFer の持つスキルを用いていることが分かった。

2.3 小括

以上から、多くの WWOOFer が地域住民との交流を期待しており、その交流の機会をホストが設けていることが明らかになった。また地域住民との交流は、WWOOFer にとって満足度を高め、再訪への大きな要因の一つとなることが明らかになった。

Ⅲ. WWOOFer の地域に関わり方とホストの取り組み

3.1 調査対象地及び調査対象ホストの選定

前章のアンケートからわかるように、WWOOFer はホストを介して地域住民との交流を多く持ちかつ満足度も得ている。そこで、3章では、ホストが地域活動に展開している類型③、④に該当する先進的な活動を行うと考えられるホストに着目し、詳細な WWOOFer の地域との関わりを参与観察とヒアリング調査から明らかにする。

参与観察における調査対象を出来る限り増やすために、以下の条件に当てはまるホストが複数人いる地域を抽出した。

- WWOOF 受入を表明している 171 人の中で、WWOOF 活用類型③④である。
- 同時期に訪日外国人の WWOOFer を複数受け入れている。
- 活動内容を定期的に HP や FB 等インターネット上で配信している。

上記条件から、岐阜県下呂市馬瀬地域を調査対象地とし、同地域の 2ヶ所のホスト、A 氏および B 夫妻を調査対象とした。A 氏がマンパワー活用型であり、B 夫妻がスキル活用型である（表 5 参照）。

表5 参与観察対象

ホスト	②地域活動マンパワー型:Aさん	④地域活動スキル型:Bさん
ホスト事業	半農半アーティスト	自然体験アドベンチャー、異文化教室運営
調査期間	①2016年5月1日～6日(6日間) ②2016年8月6日～8月13日(8日間)	2016年8月14日～8月28日(15日間)
観察対象	滞在が重複した訪日WWOOFer数	2人
	滞在が重複した元WWOOFer数	3人
使用言語	英語(初級)、タイ語(初級)	英語(上級)、フランス語(上級)、ドイツ語(初級)

3.2 調査手法および調査対象概要

本章では WWOOFer の地域への関わりの形を明らかにするために、筆者自ら WWOOFer として現地に赴き、滞在期間が筆者と重複した WWOOFer の参与観察を行った。日々の活動を「WWOOFer 滞在ログ(表6)」としてまとめることで地域住民との関わりの有無と内容を記録し、活動および滞在所を地域住民との交流内容とともに「WWOOFer ログマップ(図3,4,5)」として地図化した。

参与観察調査は全3回、計29日間行った。ホストA氏の元では、地域向けイベント⁽⁵⁾準備期(通常時)と開催期の2回訪れ、地域活動の有無による地域との関わりの変化を比較した。A氏の元では、重複した訪日 WWOOFer は1回目が2人、2回目が1人であった。B夫妻の元では重複した2人の訪日 WWOOFer に加え、かつてB夫妻の元で WWOOF 活動をし、再訪して WWOOF 同様の活動をしている

表6 WWOOFer 滞在ログの例

【凡例】太字:地域住民との関わりを持った内容		調査②Aさん(地域イベント開催時)	
地域イベントの進行	筆者調査②	到着日	WWOOFerA-3
		出発日	2016/8/19
滞在期間	9日間	15日間	
出身国	日本	ポルトガル	
日本語	○	×	
5日	石彫家の滞在製作開始		1日目
		到着、午後・セルフビルド建築の補修、地区公民館宿泊	
6日	1日目	朝方、地区公民館到着 Aさん私有地にあるセルフビルド建築の補修 アーティスト向け昼食準備 ホスト、滞在アーティストと昼食 フリータイム WWOOFerA-3と馬瀬川にて遊泳、インタビュー 午後:共同農園にあるAさんのイチゴ畑で草刈り 地区公民館にて夕食の準備、 アーティスト滞在用に地域住民からの差し入れ有 Aさん実家にて入浴 滞在アーティストらと一緒に談笑、酒盛り 地区公民館にて就寝	2日目
		朝方、地区公民館到着 Aさん実家私有地にあるセルフビルド建築の補修 アーティスト向け昼食準備 ホスト、アーティストと昼食 フリータイム 筆者と馬瀬川にて遊泳、インタビュー 午後:共同農園にあるAさんのイチゴ畑で草刈り 地区公民館にて夕食の準備、 アーティスト滞在用に地域住民からの差し入れ有 Aさん実家にて入浴 滞在アーティストらと一緒に談笑、酒盛り 地区公民館にて就寝	
7日	色のWSアーティスト到着	2日目	3日目
		地区公民館にて起床、朝食 アーティスト向け朝食を準備 午前:共同農園にあるAさんのイチゴ畑で草刈り 石のWS見学 アーティスト向け昼食準備、 ホストと滞在アーティストと昼食 フリータイム: WWOOFerA-3と馬瀬川にて遊泳、 午後:共同農園にあるAさんのイチゴ畑で草刈り 地区公民館にて夕食の準備、温泉 アーティスト滞在用に地域住民からの差し入れ Aさん、地域住民運営スタッフ、差し入れでサポートする地域住民、地域/滞在アーティストらと一緒に交流会 地区公民館にて就寝	3日目
		地区公民館にて起床、朝食 アーティスト向け朝食を準備 午前:共同農園にあるAさんのイチゴ畑で草刈り 石のWS見学 アーティスト向け昼食準備、 ホストと滞在アーティストと昼食 フリータイム: 筆者と馬瀬川にて遊泳、 午後:共同農園にあるAさんのイチゴ畑で草刈り 地区公民館にて夕食の準備、温泉 アーティスト滞在用に地域住民からの差し入れ Aさん、地域住民運営スタッフ、差し入れでサポートする地域住民、地域/滞在アーティストらと一緒に交流会 地域住民Dさんの自宅に招待、Dさん宅紹介およびDさん宅にてオリビック観戦 地区公民館にて就寝	

訪日外国人も「WWOOFer 経験者」として観察対象とした。

また参与観察期間で把握できない点を補完するため、ホスト、WWOOFer および地域住民にインフォーマル形式の聞き取り調査を随時行った。その結果、ホスト2人、WWOOFer7人、かつて WWOOF でホストを訪れ再訪した訪日外国人(WWOOFer 経験者)3人、下呂市内地域住民21人、地域活動関係者⁽⁶⁾3人から話を聞くことができた。

3.3 ホストA氏の元での WWOOFer の活動と地域との関わり

(1) イベント非開催期(通常時)

イベント非開催期における、A氏 WWOOFer 滞在中および活動内容、並びに地域との関わりを、図3に整理した。

i) A氏の WWOOFer の滞在中および活動内容

WWOOFer は、A氏の実家および WWOOFer ハウスと呼ばれる寝泊まり専用の家屋に滞在していた。活動内容は、A氏の私有地にてイベントに向けたセルフビルド建築の整備、家庭菜園の草刈り、また地域の公共農園にあるA氏借用畑の草刈り、またA氏が友人より借りている農作放棄地を開拓したオープンガーデンの草刈りを行っていた。

ii) A氏の WWOOFer と地域との関わり

WWOOFer がA氏私有地で活動する際には、地域住民との関わりを持つことはなかった。しかし地域の公有地もしくは借用地で活動する際には、同じく公有地を利用する地域住民や、借用地に散歩に来た所有者である地域住民と偶発的に関わりを持つことがあった。地域住民が WWOOFer の活動している場を訪れる形で、WWOOFer は地域住民と関わりをもっていた。

(2) 地域向けイベント開催期

イベント開催期における、A氏の WWOOFer 滞在中および活動内容、並びに地域との関わりを、図4に整理した。

i) A氏の WWOOFer の活動

WWOOFer 滞在中に関しては、A氏の実家と地区公民館を行き来しながら、地域内外から集まったアーティストらと共同生活を送った。活動に関して

は、共同農園での草刈り、地区公民館での滞在アーティストの食事準備およびイベント準備、私有地の野原ではWS補佐やイベント準備、野外イベント会場でのイベントスタッフとして準備、当日の進行補佐、片づけ等を行った。

ii) A氏のWWOOFerと地域の関わり

通常期とは異なり、活動場所の全てにおいて地域住民との関わりがあった。イベントにより私有地が一般に積極的にひらかれ、WWOOFerはイベントスタッフとして作業をしていたため、イベントに参加する地域住民や同じく手伝いの地域住民と関わりを持っていた。かつ、地区公民館にアーティストらと共に宿泊していたことで、アーティストを支援する地域住民らが集い、一緒に食事や宴会をすることが多々あった。

通常時に見られた地域住民がWWOOFerの活動している場を訪れる形もしくは、公民館など公の場に地域住民とWWOOFerが集う形で、WWOOFerは地域住民と関わりを持っていた。

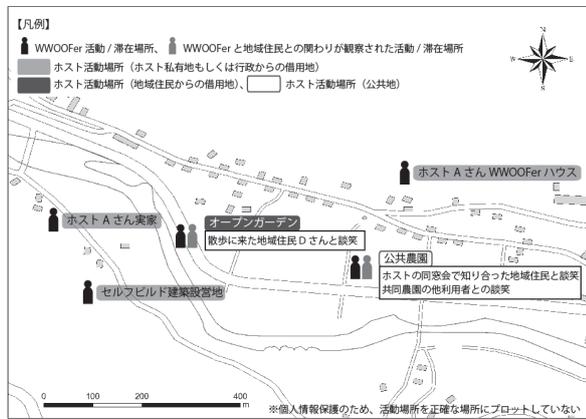


図3 A氏のWWOOFer通常時ログマップ

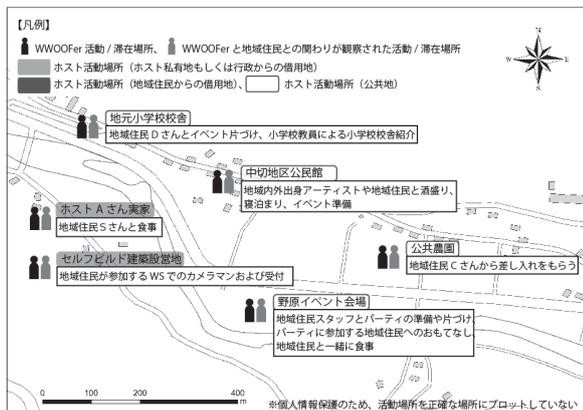


図4 A氏のWWOOFerイベント開催時ログマップ

3.4 ホストB夫妻の元でのWWOOFerの活動と地域との関わり

B夫妻の元でのWWOOFer滞在および活動内容、並びに地域との関わりを、図5に整理した。

i) B夫妻のWWOOFerの滞りおよび活動内容

WWOOFerの滞りに関しては、ホストB夫妻が用意するWWOOFer専用の家屋「WWOOFerハウス」に宿泊し、ハウスの定員を超えた場合、一部のWWOOFerリピーターがB夫妻自宅に宿泊していた。日中は、主に西村地区にある事務所へ移動し作業をしていた。活動内容に関しては、基本的にはB夫妻の本業となる自然体験アドベンチャーのガイド及び事務作業、およびWWOOFerの母語もしくは第二言語を用いた外国語教室(英語、フランス語)の講師であり、それに加えて事務所周辺の整備、また地域住民の手伝いやサポートであった。

ii) B夫妻のWWOOFerと地域の関わり

A氏のWWOOFerと同様に、地域住民が事務所やWWOOFerハウスを訪れて声をかける、WWOOFerの送別会に地域住民を呼んで開催する

【凡例】

WWOOFer活動/滞在場所、
 WWOOFerと地域住民との関わりが観察された活動/滞在場所
 ホスト活動場所(ホスト私有地もしくは行政からの借用地)、
 地域住民活動場所
 ホスト活動場所(地域住民からの借用地)、
 ホスト活動場所(公共地)

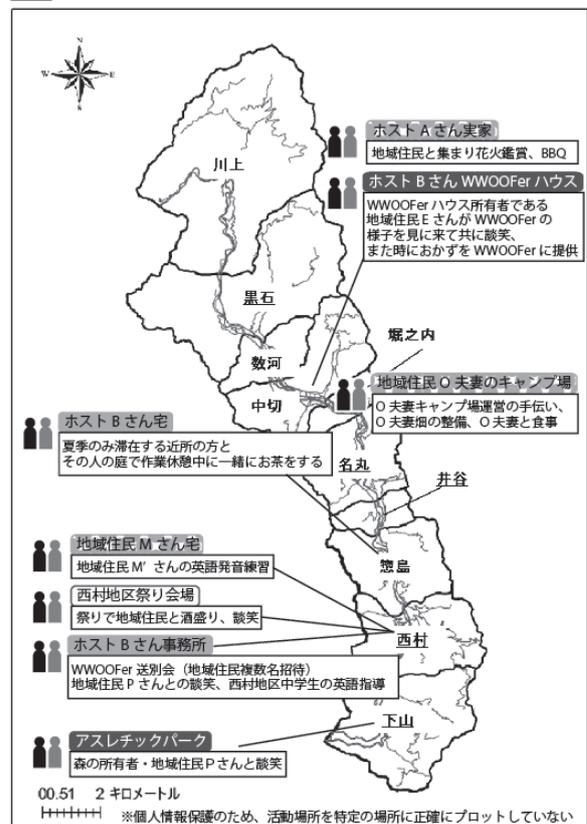


図5 B夫妻のWWOOFerログマップ

など、地域住民が WWOOFer の活動／滞在場所を訪れる形がみられた。また同じく B 夫妻が WWOOFer を地域祭りに連れていくなど、WWOOFer と地域住民が公の場に集う形で関わり方がみられた。

これら A 氏との共通の関わり方に加えて、B 夫妻のもとではさらに、地域住民の活動する場に WWOOFer を派遣していた。運営に人手が足りない、英語を話せるようになりたいなど、ホストの B 夫妻が、地域住民の個々の要望や地域住民の持つ課題を把握することで、課題に見合うスキルや関心をもつ WWOOFer を地域住民に派遣していた。地域住民は、ホスト B 夫妻よりマッチングされた WWOOFer に改めて何をするかを伝え、WWOOFer もその要望に応えようと 1 対 1 で交流を持つため、WWOOFer という属性的な捉えられ方でなく、相互に〇〇さんというような、特定の個人として認識している様子が観察された。

また支援作業を受けた地域住民は、その返礼として、手伝いをした WWOOFer に食事や野菜を提供していた。

3.5 WWOOFer と地域の関わりを生み出すホスト B 夫妻の取り組みとその影響

地域との多様な関わりを持つ B 夫妻に着目し、彼らが取り組む工夫として行う WWOOFer の派遣をより詳細に見ていく。

ホスト、WWOOFer およびホストらと懇意にしている地域住民にヒアリング調査を行ったところ、B 夫妻が過去に行った WWOOFer の派遣は 10 件確認された（表 7）。

大別すると、ア) 地域住民の課題と WWOOFer のスキルを把握し両者をマッチングすることで地域住民個人々の課題解決をする派遣と、イ) ホストが地域住民の持つ観光資源と訪日 WWOOFer の興味関心を把握し、両者をマッチングする事で

WWOOFer の滞在満足度の向上と地域住民が国際交流を享受する機会提供の派遣に取り組んでいた。

ア) に関しては、ホストが WWOOFer を用いて作業支援を行うことで、その結果、地域住民は日々の余剰生産物や自家消費のおすそ分けや物々交換の習慣の延長線上に、返礼としてホストに野菜や WWOOFer に食事を提供していた。中でも、長期的に WWOOFer の支援を受ける地域住民や、WWOOFer 派遣により信頼が生まれた地域住民からは、作業支援期間の宿泊場所や WWOOFer 滞在用に地域住民が有する空き家を返礼として提供されることもあり、食と宿泊場所を常に必要とするホストの WWOOF 受入を地域がゆるやかにサポートしている様子が確認された。

イ) に関しては、ホストを介して地域住民と交流することで、地域内で友人を得る機会となり、WWOOF 体験終了後も再訪する理由の一つとなっていた。

これらの取り組みにより、地域住民が訪日外国人である WWOOFer に価値を見出し、WWOOFer を活かした新規事業や活動が生み出されていることが確認できた。例えば、地域住民と WWOOFer 間でインバウンド受入を見越した民泊事業の企画や試作を進める、WWOOFer が母国で寄宿舎の管理人であることを活かして地元高校と WWOOFer の勤務校との国際交流活動が企画される等である。

さらには、WWOOFer が常に事務所にいることで、地域内に国際空間ができ、それを魅力に感じる人々が地域内外から訪れる様子が確認された⁽⁷⁾。

IV. 地域に訪日外国人活用を組み込むホストの活動展開と考察

4.1 B 夫妻の訪日外国人活用の変遷

作業対価型滞在システムを独自の工夫を凝らし、地域と WWOOFer の多様な関わりを生んだホスト

表 7 B 夫妻が過去に行った WWOOFer の派遣

派遣タイプ	地域所属	課題／資源	派遣された WWOOFer	内容	返礼	WWOOFer との交流からの発展	
ア	地域住民	Eさん 英語を話したい	英語話者	英語教室	野菜、米、家屋	貸し出し家屋に風呂の増設	
ア、イ		Mさん 英語の発音を良くしたい ／社大な日本家屋	英語話者		食事	インバウンド受入を見込んだ民泊事業の企画	
ア、イ		O夫妻 人手が足りない ／社大な日本家屋	日本語話者	オートキャンプ場の運営	野菜、食事、宿	来年 WWOOFer ホスト登録予定	
ア、イ		Fさん	目が不自由で掃除不可	長身	喫茶店の掃除（天井付近）	あまご付の食事	事務所前の F さん空き家の貸し出し許可（改造許可付）
ア、イ			地域の野菜売り場が欲しい	家具職人	野菜売り場の作成		
ア、イ			家屋周辺の雑草の繁茂 ／郷土料理を出すお店	特殊技術不要	庭の手入れ		
ア、イ	近隣温泉施設	施設周辺の雑草の繁茂／温泉	特殊技術不要	草取り	温泉無料券		
ア、イ	同地区旅館	ピーク時の人手不足 ／域内一番人気の高級旅館	特殊技術不要	血洗い	野菜		
ア	地元学校	国際交流を体験したい		授業		高校とフランスのスカイプ交流事業開催予定	
イ	地域住民	Gさん 賑わい好き／社大な日本家屋	海外出身者	ホームステイ			

B 夫妻の現状に至るまでの、訪日外国人受入の活動展開経緯を整理し、各展開で求められるホスト、訪日外国人、地域住民の要因を考察する。

調査対象は、活動および訪日外国人との関わりが記載されている B さんのブログ「フィッシングセンター水辺の館」およびフェイスブックページ「マウンテンライフ飛騨」の全 290 の記事とした (2008 年~2016 年)。分析手法としては、2008 年よりブログで紹介されている顧客を除く訪日外国人の活動を年ごとに、日本/田舎観光体験、ホストのメイン事業の作業、訪日外国人スキル活用事業の作業、地域への奉仕活動の 4 種に分類し、各活動が紹介された記事数の変遷を見ていく。

訪日外国人の活動変遷は以下の図 6 の通りである。2008 年までは近隣学校「の外国語指導助手を対象にした日本/田舎観光体験が多いものの、2009 年では訪日外国人スキル活用事業が増加し、2013 年では各事業における活動が大幅に増加し、観光体験が減少するとともに地域への奉仕活動の常態化が確認できる。これは B 夫妻が 2009 年よりカウチ

サーフィン⁽⁸⁾のホストを始め、2012 年夏に WWOOF ホストの開始が大きな要因となっていると考えられる。

そこで 3 章で明らかになったことと勘案し、B 夫妻の活動を全 5 段階に分類した。カウチサーフィン開始までを、ホストが訪日外国人との交流を楽しむことが第一目的であった 1)「交流享受時期」、カウチサーフィン開始から WWOOF 開始までを、増加した訪日外国人を不定期の英語教室等で地域へ活用し始めた 2)「交流共有段階」、WWOOF 開始時から、前段階で事業化の可能性を見出し事業の作業要員とより多くの国際色を求めた 3)「自己ビジネス活用段階」、地域課題のマッチングをし始めた時を 4)「地域需要マッチング段階」、そしてその関わりの中から新事業/活動が創出された時を 5)「地域新規事業協働段階」とした。

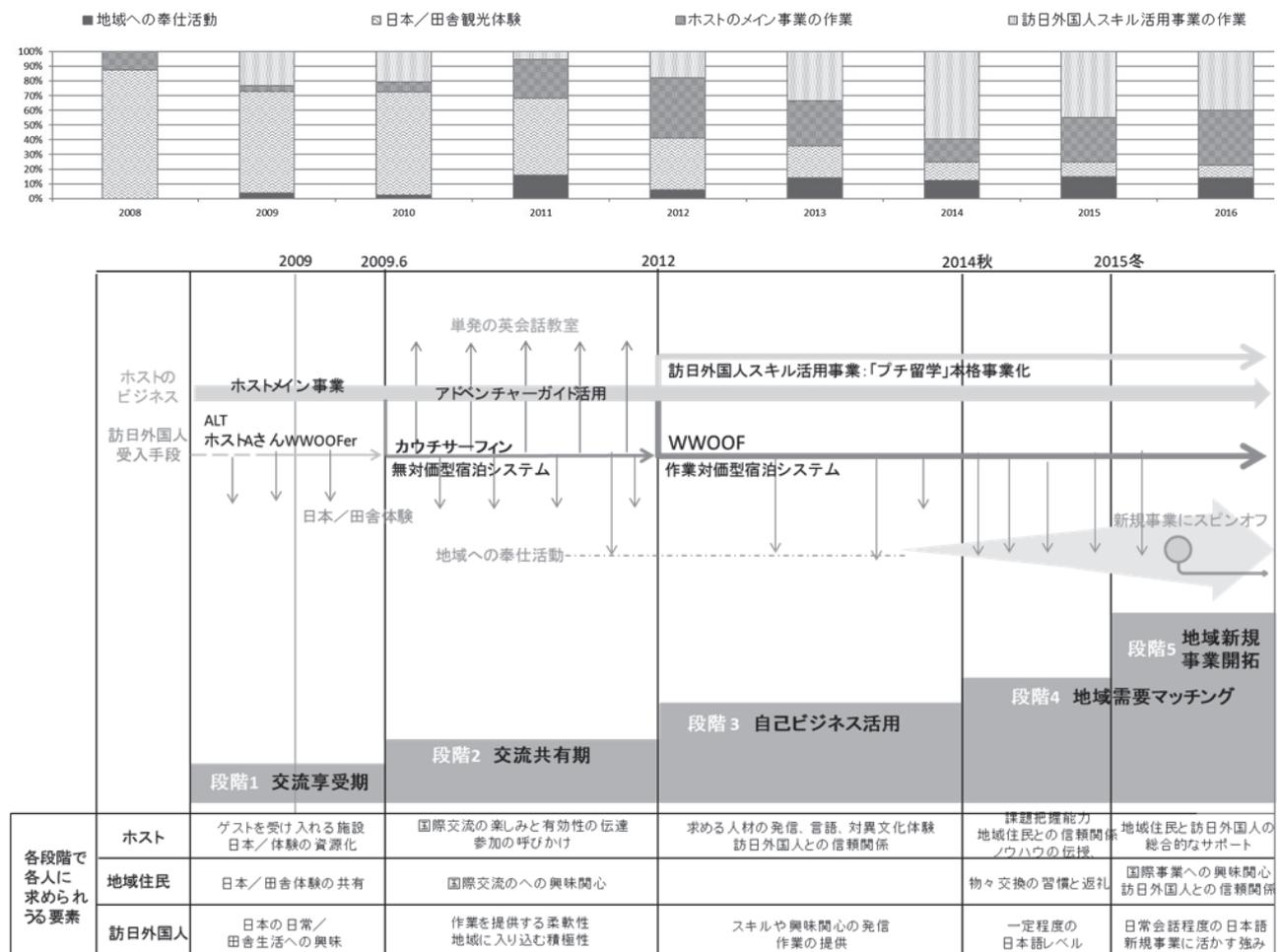


図 6 B 夫妻の訪日外国人活用の変遷と各アクターに求められると想定される要素

4.2 B 夫妻の訪日外国人活用の展開に求められる要素

以上の段階を経る上で、ホストに求められる要素を考察していく。

段階1) においては、訪日外国人の受入施設および訪日外国人を楽しませることが不可欠である。そのためホストには、地域における日本／田舎体験ができる資源の発見と把握が要される。3章で明らかになったように、地域住民が持つものを含め広範に把握していることが、訪日外国人と地域との関わりを生むために重要であると考えられる。段階2) においては、地域で訪日外国人との交流を共有するには、まず地域住民の国際交流への興味関心の向上が必要とされ、そのためにホストは国際交流の価値発信が求められる。段階3) においては、訪日外国人スキルを活用する事業を推進していく上で、訪日外国人と祖語のない意思疎通が求められると考えられる。そのためホストには、訪日外国人のスキルや要望を把握するために、高度な言語能力および豊富な対異文化体験が求められるであろう。段階4) においては、マッチングを行うために地域の中で何が要求されているのか、地域課題の把握能力および、地域が支援作業に対する返礼をする習慣および余剰生産物や空き家などを所有していることが重要となる。段階5) においては、地域住民が国際交流およびインバウンド事業への興味関心を持っていることが重要である。ホストは、彼ら二者間の関係を総合的にサポートすることが望まれる。

以上、訪日外国人と協同する地域活動の萌芽期の1モデルおよびホスト、訪日外国人、地域住民にそれぞれ求められる多様な要素を示した。しかしホストは一人／一家族である必要はない。これらの要素を複数人で分担し合うことも可能である。実際に地域住民による WWOOFer 用の家屋の提供が行われていた様に要素の共有はできる。訪日外国人と協同した地域活動の初動期の動きを示すことができた。地方地域において、訪日外国人のもたらす作業および地域の資源を広く共有し、3章で見られた地域への取り組みサイクルを促進していくことが今後の地方地域では求められていくであろう。

V. まとめ

作業対価型滞在システムを利用する訪日外国人は、「食・宿泊場所」の対価として「作業」を支払

うため、彼らの観光行動によって地域にもたらされる経済的効果は決して大きくはない。しかし、3章で示したように、作業対価型滞在システムをホストとゲストらのみが享受するものから、ホストが地域の課題・資源および、訪日外国人のスキル・興味を把握し、マッチングさせて地域住民にまで拡張させることで、訪日外国人は地域にマンパワーやスキルをもたらし、地域に国際空間を生み出す役割を果たすことが期待される（図7）。

そして地域課題の一つである作業人員や担い手の確保の解決、さらには国際空間や訪日外国人の存在そのものが資源となり、地域に新しい経済的交流や文化的交流を創出することができるだろう。

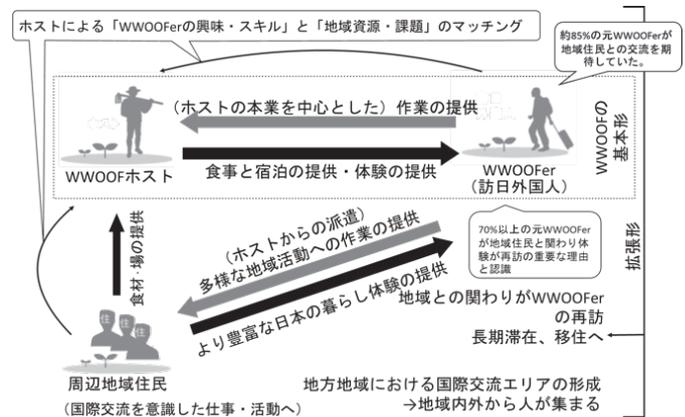


図7 作業対価型滞在システムの拡張

謝辞

本稿は、2017年度首都大学東京都市環境研究科観光科学域博士前期課程論文「作業を対価とする滞在システムを利用する訪日外国人とホストおよび地域の関わり方に関する研究—日本におけるWWOOFの事例を中心として—」（著者：岡田愛、指導教員：川原晋）を再構成したものである。論文執筆にあたり、快く調査にご協力していただいたホストの皆様、WWOOFer経験者の皆様、そしてあたたかいご指導を賜った観光科学域の先生方および先輩同僚に、深く御礼申し上げます。

（注）

- (1) 森重、依田（2010）は「労働」と「余暇」が事例として、ももんがクラブやこへび隊を挙げるものの、両活動とも外国語でのボランティア登録フォームを提供していない。また中村、松本、敷田（2008,2010）は、

事例として、WWOOF を挙げるものの、簡潔な概要を示すのみで具体的な地域における活動には言及していない。

- (2)世界に 120 か国で行われている WWOOF は、国ごとに事務局が設置され、国の法規や文化習慣に合わせた運営をしている。
- (3)WWOOF ホストは宿泊受け入れの動機として、自身の生計を確立するためではなく、エコ的な生活の実践およびエコの考え方の啓蒙が挙げられる (McIntosh, Campbell 2001)。
- (4)一般的な金銭を介在するホストとゲスト関係以上に、WWOOF 利用者間では、友人関係および仕事の上下関係が反映されより複雑な関係性となっていることを指摘している (Cronauer 2012)
- (5)A 氏が地域住民と企画した 2016 年初めての試みアートイベント「Art Gig」で、7月17日~8月14日の間、さまざまなパフォーマンスやアート WS を開催された。筆者滞在期間は、地域内外から来た彫刻アーティストの滞在制作や、地域外から来たアーティストのアート WS が行われていた。
- (6)地域外から A 氏もしくは B さんの活動をサポートするためのボランティアしに訪れた日本人を指す。
- (7)地域内からは過去に英語留学経験がある住民や、子供に英語や国際交流の機会を持ってほしいと考える住民が B 夫妻の事務局に積極的に足を運んでいた。地域外からは、英語かつ国際的なメンバーと作業できる空間として、WWOOF 同様、作業対価型滞在をする日本人が 2012 年以降毎年夫妻の元を訪れ長期滞在している。
- (8)「寝るための『ソファ (couch)』を必要とする旅行者 (サーファー) と、それをいとわないホストを結び付けるためのインターネット上のホスピタリティ交換ネットワーク」(額田 2014)。作業を対価とする WWOOF とは異なり、滞在の対価に特定のものが規定されていないフリーアコモデーションのひとつ。

参考文献

- 須永和博 2009. マイナー・サブシステムとしての観光—タイ北部の山地カレン社会におけるコミュニティ・ベース・ツーリズム—, 立教大学観光学部紀要 11: 53-63
- 中村 憲司, 松本 秀人, 敷田 麻実 2008. 「労働」と観光が融合したボランティアツーリズムに関する研究, 日本観光研究学会 :425-428
- 敷田麻実 2005. よそ者と協働する地域づくりの可能性に

関する研究, 江渟の久爾 50: 74-85

- 森重昌之, 依田真美 2010. ボランティア・ツーリズムを通じた新たな都市・農村交流の可能性に関する研究, 「北陸地域の活性化」に関する研究助成事業論文集 15: 37-42
- 敷田麻実 2010. 援農という希望, 東白川都市交流促進事業 農的暮らしセミナー実績報告書: 19-24
- Ord, Cynthia. 2010. Contribution of Volunteer Tourism to Organic Farms: An analysis of the WWOOF exchange in Canada. In ECOCLUB.com Paper Series: International Ecotourism Club
- McIntosh, A. and Campbell, T. 2001, Willing Workers on Organic Farms (WWOOF): A neglected aspect of farm tourism in New Zealand. Journal of Sustainable Tourism: vol.9 (2): 111-27.
- Dagmar Cronauer. 2012, HOST-GUEST RELATIONSHIP IN NON-COMMERCIAL TOURISM SETTING : WWOOFING IN NEW ZEALAND, Victoria University of Wellington
- Margo B. Lipman and Laurie Murphy. 2012, Make Haste Slowly?: Environmental Sustainability and Willing Workers on Organic Farms, Slow Tourism Experience and Mobilities, Simone Fullagar, Kevin W. Markwell, Erica Wilson: 84-96
- Glenn Burns, Takumi Kondo. 2015, An Analysis of WWOOF Activities in Japan: Facilitating New Social Development, 日本農業経済学会, 17: 82-87
- Glenn Burns. 2015, WWOOF in Japan : Does it constitute new social development?, ISAA Review: vol.14(1): 25-33
- Glenn Burns. 2016, WWOOF activities in Japan : Potential for edifying and nonmonetary tourism [an abstract of entire text], theses (doctoral - abstract of entire text)
- 額田聖菜 2014, 「旅におけるつながり : 移動的世界における観光, テクノロジー, 一体感」, 京都社会学年 22: 141-148
- フィッシングセンター水辺の館
<http://www.mazegawa.com/mizube/>
マウンテンライフ飛騨 Facebook ページ
<https://www.facebook.com/MountainLifeHida/?fref=ts>
(アクセス日 2017.1.23)